

啓発事業 第 12 回 アジア太平洋薬学生シンポジウム  
The 12th Asia Pacific Pharmaceutical Symposium  
日本薬学生連盟 APSS2013 実行員会  
(〒106-0032 東京都港区六本木 3-6-8 谷川ビル 2F 03-5574-7123)

## 要旨

### 1、啓発事業実施目的

近年、人口の高齢化、医療技術の発展などにより世界的に医療費が高騰していく中で、セルフメディケーションへの注目が高まっています。医療費削減のためだけでなく、自らの健康状態に興味を持ち、セルフメディケーションに取り組むことは、QOL（生活の質）を著しく低下させる、生活習慣病を中心とした多くの病気を未然に防ぐことが出来るという点でも有用です。しかしながら、専門的な知識を持たない患者自らが適切にセルフメディケーションを行うためには、時に専門家からの助けを必要とし、とりわけ高齢化が進む日本において、薬剤師がセルフメディケーションの啓発に果たす役割は今後益々大きくなると考えられます。セルフメディケーション領域で薬剤師が求められる役割は、薬局における OTC 薬品の販売、健康指導、地域住民へのセルフメディケーション啓蒙活動への参画等、多岐に渡り、従来の医薬品の販売、調剤業務の枠を超えて取り組む薬局も多くあります。このような時代背景の中で、未来の薬剤師となる薬学生が早期にセルフメディケーションへの知識や理解を得ることは重要です。さらに、日本を後追いするように高齢化する他のアジア諸国の薬剤師及び薬学生にも同様のことがいえます。

一方、本啓発事業、アジア太平洋薬学生シンポジウム（以下 APSS とする）とは、世界保健機関、国際連合教育科学文化機関等と正式にパートナーシップを結ぶ、国際薬学生連盟のアジア支部が年に 1 度開催する会議です。APSS はアジア圏の薬学生間の学術的、文化的な交流を深め、薬学生に対して、他国の薬学教育や薬剤師の職能を知るための機会を提供してきました。

そこで、本啓発事業（第 12 回 APSS）では「薬剤師が取り組むセルフメディケーションを理解する」ことを目的とし、APSS の開催により、将来セルフメディケーションに携わる薬学生が、現状の取り組みについて理解を深め、アジア地域の薬学生と知識や経験を共有することで、アジア地域の薬剤師業務の活性化を目指すこととしました。

## 2. 啓発事業実施方法及び内容

### 2-1 実施実績

日時：2013 年度 8 月 22 日～28 日

開催場所：千葉県内（東邦大学、アパホテル東京ベイ幕張）

宿泊先：アパホテル東京ベイ幕張

後援団体：アジア太平洋セルフメディケーション協会、一般社団法人千葉県製薬協会、一般社団法人日本病院薬剤師会、公益社団法人日本薬学会、公益社団法人日本薬剤師会、厚生労働省、日本 OTC 医薬品協会、日本チェーンドラッグストア協会、日本政府観光局、日本製薬工業協会、文部科学省

後援企業：大正製薬株式会社、キッセイ薬品株式会社

助成団体：一般用医薬品セルフメディケーション振興財団、財団法人 MRA ハウス、公益財団法人武田科学振興財団、公益財団法人薬学研究奨励財団、財団法人永井記念薬学国際交流財団

プログラム：

アジア各国からの薬学生が 7 日間の合宿形式で、世界の薬学事情や、セルフメディケーションについての知識、また学生同士のコミュニケーションを深められるよう様々なワークショップ、シンポジウム等の啓発事業を行いました。以下では、特にセルフメディケーション啓発において重要な役割を果たした内容について述べます。

### 2-2 プログラム内容概略

#### 1) シンポジウム

本啓発事業では、3つのシンポジウム（シンポジウムⅠ：大正製薬株式会社上原明代表取締役会長による”The role and importance of self-medication in the 21<sup>st</sup> century”、シンポジウムⅡ：慶應義塾大学薬学部分析科学講座の水島徹教授による”Scientist as a Pharmacist, Pharmacist as a Scientist”、九州大学薬学部薬理学講座の津田誠准教授による”A world’s first: research in neuropathic pain and neuralgia”、シンポジウムⅢ：DiJapan 平林史子代表による ”Role of pharmacists in public health”）を企画しました。ここでは、本事業の冒頭に開催したシンポジウムⅠについて詳細を記します。大正製薬株式会社上原明代表取締役会長に、日本最大の OTC 医薬品メーカーの会長という視点から、高齢化社会が進む日本において「セルフメディケーション」が、各個人、ヘルスケア業界、そして政府にとってそれぞれどのような意義を持つのかについてお話いただきました。生活習慣病を三輪車に例えると前輪は「予防とスイッチ OTC を使った初期治療」に相当し、二つの後輪は「処方箋新薬+ジェネリック」に相当し、症状が重症化する前に「予防=前輪」が最も重要であると会長は語られました。このように予防医療が重視されていく中で、地域の人々に最も近い存在である薬剤師が果たせる役割は、

大いにあるとの考えもお話いただきました。病院に行かず、自ら対処しようとする人々がまず立ち寄るのは地域の薬局です。そこで、薬剤師は適切な医薬品を選択し、情報提供をするだけでなく、時には医療機関での受診の必要性も判断します。つまり、薬剤師は予防医療の、いわば第一関門といえ、薬剤師が「セルフメディケーション」を理解し、重要性を知ることは不可欠です。近年、OTC 医薬品はネット販売の可否について論じられることも多くなってきました。しかし、ネット販売によって薬剤師の役割がなくなるということではなく、上原会長によると、むしろ新しい薬剤師のあり方を考える機会となるのではないかとのことでした。参加者にとって、インターネット販売を含めた患者一人の医薬品使用を全て管理する「かかりつけ薬剤師」の意義と、セルフメディケーションにおける薬剤師の使命を再確認する講演となりました。

## 2) ワークショップ: “Self-medication & Pharmacy: How pharmacists can help improve Self-Management”

本事業では 25 個のワークショップを開催しました。各ワークショップにて参加者は、医学・薬学等に関与する様々な講演を聞いた後、異なる国の学生が含まれるように構成された少人数のグループに分かれ、講演に関するトピックについて感想や意見を述べ合い、また、各国での状況等について共有しました。

ここでは、セルフケアやセルフメディケーションに対して薬学生が将来、薬剤師としてどのように関わることができるかを考えることを目的としたワークショップについて紹介します。ここでは、セルフメディケーションの定義、その重要性についての説明を行った後、セルフケアおよびセルフメディケーションを地域の方々へ啓発するイベントとして弊団体で過去に開催した血圧測定、スパイロメーターを用いた肺年齢測定、医薬品適正使用を学ぶゲームについて説明した上で、それぞれの機械やゲームを参加者に体験してもらいました。このようにして、各国にて薬剤師、薬学生がどのように本テーマに対してアプローチすることができるか考える機会を提供しました。また、それぞれグループに分かれてもらい、地域住民に対してセルフメディケーションを訴えるために使用するポスターの作成も行いました。

## 3) ポスターセッション

本事業では、ポスターセッションも開催しました。「予防 (Disease Prevention)」をテーマに、各国の学生による、テーマに関連した内容の発表が合計 14 演題、ポスター及び、口頭発表の形式で行われました。「クラミジアの感染、症状に関する調査」「手足口病の衛生環境改善による予防法」「クスリウコンを用いた肝炎ウイルス予防法」といった感染症の予防に関するものや、「BRCA1 変異検査による乳がん予防法」といった癌の予防に関するもの、「旅行中に生じる下痢の予防方法」に関するものなど、各国チームは多種多様な観点からテーマに関するトピックを発表していました。基本的には、文

献を引用する Review に相当する発表が多くみられましたが、発表者ら自らで収集したデータを報告したグループもありました。セッション中、学生間で各発表に関して絶え間ない議論がなされており、参加者、発表者双方にとって得るものの大きい機会となったと考えております。

#### 4) キャンペーン

##### 第一部：“Self-care and Self-medication Awareness Parade”

セルフメディケーションを日本の地域住民へ直接啓発するため、千葉県船橋市にて「知ろう薬を！守ろう健康！頼ろう薬剤師！」という日本語のかけ声と共に約 400 人の薬学生でパレードを行いました。前述の“Self-management & Pharmacy: How pharmacists can help improve Self-Management”ワークショップにて作成した、ポスターを掲げ、地域住民に対して視覚的にも訴えることで注目を集めることが出来ました。

##### 第二部：“Self-care and Self-medication Awareness Group Photo Contest”

Group Photo Contest としてグループ毎に、セルフケアやセルフメディケーションを全世界へ啓発するために使用する広告用写真作りを行いました。グループで写真1枚（参加者がメッセージを持って撮影、人文字を作って撮影等）を撮影してもらい、次の日に参加者の中で投票を行い、上位3グループを表彰しました。コンテストで優勝したグループの作品について、写真を添付しています。

セルフメディケーションを手助けする側である未来の薬剤師が、地域住民に対して実際に呼びかけをすることで、セルフメディケーションを支える薬剤師の存在を訴えることが出来ただけでなく、薬剤師としての在り方を各国の学生同士で考える機会も作ることが出来たと考えています。

### 3. 啓発事業成果

#### 3-1 参加者

全参加者人数：394名

内訳：Malaysia(59名), Thailand(113名), Taiwan (77名), Indonesia (80名), Australia (6名), Singapore (6名), Korea (9名), Algeria (14名), Denmark (4名), Canada (2名), Japan (24名)

### 3-2 参加者アンケートの結果

本事業に対するアンケート結果を6にまとめました。(ワークショップは同時刻にいくつものワークショップが開催され、参加者が希望するものを選択して参加する形なので、上記のワークショップ“Self-management & Pharmacy: How pharmacists can help improve Self-Management”に関するアンケートの回答者数は他の質問事項の回答者数よりも少なくなっています。) アンケートの結果から、日本人の語学スキルや運営に問題はあつたものの、本事業を通して、参加者が満足できる学習機会を提供できたと感じています。

### 3-3 本事業に対する参加者の意見

- 自分の国では、薬学部の学生は薬剤師になるのが大半だが、日本は薬学部を卒業しても、研究者や製薬の開発者、MR、病院薬局薬剤師、など色んな進路があつて、APPSを通して、製薬会社に勤める予定の学生と知り合えたことがとても貴重だつた。自分はバイオ系の研究に興味を持っており、機会があれば日本で学んでみたいと少し考えていたが、その気持ちがよりいっそう強まった。
- 日本人スタッフが話す英語が、たまに理解できないときがあり、その理由でワークショップや企画の内容が理解できないことも少しあつたが、全体としては日本のヘルスケアについて知識が高まったと感じる。
- 座学だけでなく、実際に病院や薬局に見学に行ける機会があるとよかつた。
- 日本人の学生は自分の国以外のことについてよく知らないと感じた。また、日本がどのような国であるかを他国の人々にうまく伝える方法についても、もっと学ぶべきと感じた。
- 語学スキルや会議のマネジメント面に不足はあつたが、運営チームが一生懸命準備しているのを見て嬉しくなつた。
- ポスター作り等で実際に行動を起こせたのがよかつた。
- 学んだ事を自国の学生に伝えたいと思つた。ありがとうございます。
- 色んな国の学生が参加して、日本だけでなく、他国の国の様子も学ぶことができ貴重な機会だつたと思う。
- 薬剤師の役割について、他の国の学生と話し合えたのがよかつた。
- 他の参加者の意見が大変刺激となつた。もっと自分も色々勉強をしていきたいと強く感じる機会となつた。
- ポスター作りやパレードで一般の人々に訴えかけるのは面白かつたが、実際に、セルフメディケーションにおいて薬剤師が貢献していくためにはもっともっと工夫して、薬剤師の存在を知ってもらふ必要がある。

#### 4、考察

2013年8月22～28日に開催された本啓発事業は約400名、11か国の参加者が集い、APPS史上最大規模の会議となりました。そして、APPSは「アジア地域の薬学界への未来貢献」を目標として掲げていますが、今回の会議では、将来的に各国の薬学界を率いていける人材に対して「薬剤師が取り組むセルフメディケーション」をテーマとしました。

今回最大の懸念点は、異なる制度を持つ国から集まり、そもそも「セルフメディケーション」の定義さえ統一されていない薬学生たちに、日本の現状を理解した上で用意した啓発プログラムに参加してもらえるかということでした。そこで、APPSの冒頭で、大正製薬株式会社上原明代表取締役会長に「セルフメディケーション」とは何か、そして日本を取り巻く現状と、求められる薬剤師像についてご講演いただくことにしました。すると講演後には外国の薬学生から、十分に日本の現状についての理解が得られ、「セルフメディケーション」のために薬剤師として地域の方々の役に立ちたいという想いはどの国でも共通であるという意見を聞くことが出来ました。今回APPSで設定したテーマは、「セルフメディケーション」の知識や理解を得る機会を提供出来たというだけでなく、薬剤師の「職能」について皆で考え直すことが出来たという点でも有意義であったと考えています。特に、地域住民に対するキャンペーンやフォトコンテストについては評判が良く、参加者は皆真剣に啓発活動に取り組んでいました。そして何より母国に帰った後に行きたいという意見を多く聞くことが出来たのは一番嬉しいことでした。また、その他にもシンポジウムやワークショップ等を通して、他のアジア諸国より進んでいる日本の新薬開発のシステムや医療制度、薬剤管理システム等を他国の学生に紹介したため、学生からは、自国では学べない発展した内容に触れ、刺激を受けたとの評価を得ました。日本の大学院で遺伝学を使った創薬について学びたいと決意を新たにした学生や、自国の薬学システムにも日本の方法を応用したい、国に戻って他の学生にも報告したいといった学生も多く、日本と他国、双方の学生にとって新たな知見をもたらしたと考えています。

普段海外の学生と関わる機会が少ない日本人の学生にとっては、今回の会議で海外の学生とグループワークをしたり、共に講義を受けたりすることそのものが新鮮で、貴重な機会でした。海外の学生の熱意、積極性、語学力そしてプレゼンテーション力に刺激を受け、またグループの中で自分の意見を主張していく能力の必要性を強く感じた日本人学生が多かったようです。

また、会議を運営する学生メンバーにとって、文化や宗教の異なる参加者を相手にした会議は、食事やイベントの内容、礼拝用施設等細部まで配慮する必要があり、多くの困難がありました。約400名という大人数の海外学生に対してスタッフの人数がはるかに少なかったこと、時間感覚の捉え方を含めた文化的な違いがあったことなどは会議を運営していく上で障壁となり、英語力不足を感じたスタッフも見受けられました。しか

し、全国の薬学部から集まったスタッフでお互いの足りない部分を補い合い、国際的な会議を成功させたことは、各個人の成長に繋がっただけでなく、他のアジアの薬学生に対して日本人のリーダーシップを示すことも出来たと考えられます。このような経験は、運営側、参加者側どちらにとっても、将来指導的役割を担う薬剤師や創薬研究者・開発者を目指すにあたり、自らの課題を発見できた貴重な機会となりました。

## 5、まとめ

今回の APPS で行った啓発事業により、約 400 名のアジア各国の薬学生が「セルフメディケーション」について一斉に考えるという、貴重な機会を作ることが出来ました。しかし、今回の啓発事業は、世界中にいる薬剤師や薬学生、そして「セルフメディケーション」が必要なのにも関わらず認知していない世界中の患者を考えると、たった 1 回の啓発事業で満足をしてはいけません。これをきっかけに、自国に帰った薬学生たちが「セルフメディケーション」の啓発をさらに続けてくれることを期待するとともに、今後も日本薬学生連盟として、そして将来薬剤師になってからも、継続しなければならないことだと実感しました。

最後になりますが、このような学びの多いシンポジウムを開催できたのは、一般用医薬品セルフメディケーション振興財団様をはじめ様々な組織からのご支援の賜物です。この場を借りて深く御礼申し上げます。私達は、今回の学びを自身の将来に活かすとともに、後輩世代にもこの経験を共有して参りたいと思います。

## 6、写真、図表

<写真>

The 12th Asia Pacific Pharmaceutical Symposium 2013 in Japan - Supported by 大正製薬



【シンポジウムの様子】



【キャンペーンの様子】





【左写真：フォトコンテスト投票場の様子/右写真：フォトコンテスト優勝グループの様子】



【ワークショップの様子】

<図表>

アンケート結果

質問事項	1 very poor	2 poor	3 average	4 good	5 very good	回答人数
Give us the overall feedback of APPS 2013.	1	8	68	154	64	295
Did we offer enough opportunity for you understand the medical care in Japan?	0	24	90	131	26	271
How was the workshop “Self-medication & Pharmacy: How pharmacists can help improve Self-Management”?	0	2	31	33	12	78
Were you satisfied with theme/ content of the poster session?	6	11	64	146	31	258
How was the campaign?	1	4	41	101	84	231